

令和6年度 海の森づくり推進協会活動報告

堀 田 健 治

1. 種糸幹旋事業

本年も松岡担当理事を中心に、大野理事等により当協会の設立の趣旨に沿ってコンブ、ワカメの種糸の幹旋が行われた。報告は以下の通りである。

コンブ：40 枠（2000m）

送付先：

福島県、千葉県、徳島県、長崎県、鹿児島県。

漁業協同組合、漁業者、環境団体。

ワカメ：278 枠（約4170m）

送付先：

東京都、神奈川県、愛知県、兵庫県、愛媛県、長崎県、鹿児島県。

漁業協同組合、漁業者、環境団体、土木建設会社、環境団体。

2. ニュースレター発行

2025.23号「海の森づくりニュースレター」が発行された。

内容を目次によりまとめると；

- ① 高知県須崎市久通におけるボランティアとともに行う藻場の再生
 - ② 土佐湾における紅藻キリンサイの生産と利用の過去・現在・未来
 - ③ 海の森づくり推進協会からの要望と環境省、文部科学省、水産庁及び国土交通省からの回答
 - ④ 鳴門ワカメの種糸生産者・（有）向海産訪問
 - ⑤ リーフボウル技術を活用した藻場再生による沿岸域の環境教育
 - ⑥ 東京湾湾奥でのコンブ育成の試み
 - ⑦ カリブ海のセントルシアで食材キリンサイ養殖の開発概要
- 以上のような内容で大野先生と山崎理事が取りまとめた。

3. 第22回シンポジウムの開催

11月30日、「海藻の新しい産業分野と環境保全型の洋上風力発電事業」と題して、1部、海藻の新しい産業分野、2部、環境保全型の洋上風力発電事業について、東京お茶の水の日本大学理工学部を会場に対面/オンラインの形式で開催された。

以下、講演題目は；

- 1 部： ①海藻肥料と海藻飼料の需要と展望、②牛のゲップから地球を救う海藻カゲキノリが拓く新たな産業、③新たな価値を生み出すアカモク産業。
- 2 部： ①洋上風力発電基礎の建設技術（サクシヨンパッケージ基礎）、②洋上発電施設の海洋環境への影響、③洋上風力発電施設による漁業との共生による漁場藻場づくり。

1 部、2 部とも温暖化が藻類の生育にもたらす状況にあつて、新たな産業の台頭、そして題の洋上発電施設と漁業との共生を可能とするエビデンス的講演となり、シンポジウム担当理事門脇副会長の労をねぎらいたい。

尚、講演集は協会ホームページに収録。

4. 研究会報告

- ・アカモク研究会（代表、堀田理事）

東京湾奥稲毛ヨットハーバーにて日本大学理工学部海洋建築工学科星上研究室の学生の協力によりコンブ育成試験が行われた。2 月、隣接する水路より大量の降雨による淡水とゴミが流入したことが原因と思われるが、生育せず、枯死。原因を追究中である

- ・複合エコ養殖 SDG s 研究会（代表 門脇理事、斎藤理事）

持続可能は環境保全型養殖として、養殖と海藻とアワビ類の複合エコ SDGs 養殖として八代海東町漁協などで実証された。

5. ホームページ

本年も山崎 IT 担当理事により、多くの記事がホームページを飾った。シンポジウムを応援していただいている協賛会社の紹介に加え、毎回のシンポジウムの開催案内や毎年の講演集/動画などが収録されている。その他種系の注文情報、会員から送られてくるニュース記事が掲載された。

6. 支部活動

九州支部： 支部長を務めている池田修理事より、リーフボール事業を移管したので支部を閉鎖したいとの報告があつた。

秋田支部：

7. 令和 6 年度 会計収支報告

総会当日、大野事務局長より詳細な会計報告がなされるが、現在純残高 25 万、さらに広告収入、協賛金などの収入が見込める予定。